巻頭言
foreword

組織の役割と信頼

中澤 靖夫
公益社団法人日本診療放射線技師会　会長

組織は個人によって構成され，組織の目的に向かって所属する個人がおのおの努力するから組織が発展するのである．国家や会社も日放技も組織である．国家は国民のために一生懸命に働く，それと同じように国民は国家発展のために一生懸命に働く，会社の経営陣は社員のために一生懸命に働く，社員は会社発展のために一生懸命に働く，日放技の執行部は会員のために一生懸命に働く，会員は日放技発展のために一生懸命に働く，これらの相互関係が成立してはじめて組織は大きく成長するものである．

国家や会社，日放技も時代の歴史的変化により，その在り方が常に問われている．現代社会においてはウクライナ情勢が世界を揺るがしている．約14兆円の借金を抱えIMF管理化にあるウクライナ国家が大きく揺れている．親EUを支持するウクライナ人と親ロシアを支持するウクライナ人との間で戦争が始まれば，ウクライナ国家だけの問題ではなく世界の平和と経済が大混乱に陥る危険がある．2008年に発生したリーマンブラザーズの倒産は，一瞬にして約64兆円の負債を抱え，世界的な金融危機を招いた．この出来事は1兆円規模の国家予算で運営されている64カ国が一瞬にして国家破産を起こしたことを意味している．ウクライナにしても，リーマンブラザーズにしても，日放技にしても運営する執行部の役割は大きく，同様に国家の主体である国民，会社の主体である社員，日放技の主体である会員の役割も大きいものと思っている．

医療社会は長い間，患者・家族の意向や願望を無視して，一方的に医療行為をするパターナリズムが支配的であった．1999年1月11日，某大学病院において肺を手術する患者と心臓を手術する患者を取り違えて手術をするという医療事故が発生してから，患者を中心とした，患者をパートナーとして考える医療社会が求められるようになってきた．多くの医療機関では「患者さんに信頼される病院」「地域に信頼される病院」「職員が互いに信頼できる病院」を目指して，さまざまな医療安全活動が展開されている．厚生労働省は，医療機関･関連団体と連携しながら全国的な医療安全推進運動を展開している．さらに厚生労働省の中で医療安全の推進とチーム医療の推進のための方策が検討され，さまざまな医療専門職種の専門性の活用，それに伴う各医療専門職種の資格法の改定が検討されている．

本会は，会員の信頼，国民の信頼，医療界の信頼を得るために厚生労働省と連携しながら，2011年3月には全国業務実態アンケート調査を基に，診療放射線技師が行っているグレーゾーン業務についてチーム医療推進会議で検討していただいた．そしてX線CT・MRI・血管検査における自動造影剤注入装置を用いた造影剤の投与，検査終了後の抜針・止血，上部消化管への経口投与，下部消化管のネラトンチューブの挿入と造影剤の投与，核医学関連機器を用いた検査，画像誘導放射線治療における肛門カテーテルの挿入・空気の吸引，X線検診車における医師の立会いをなくす（胸部X線検診のみ）などが実施できるよう，診療放射線技師法の改正が国会で審議されている．本会は，今後も組織の役割を意識し，会員，国民，医療社会から信頼される公益職能団体として，社会に貢献できる事業を展開する予定である．何よりも患者安全・医療安全を第一優先とし，チーム医療に貢献できる質の高い診療放射線技師を育成するための生涯教育を実施していく所存である．